

今年の自然災害は、「豪雨・台風」という特徴がありました。特に、梅雨入りが遅れた影響なのか、梅雨末期や8月下旬には、秋雨前線や台風の影響で佐賀県を中心に豪雨による大きな被害が発生しました。

地球温暖化などの影響により多発・深刻化する風水害、突然発生する地震に注意しなければなりません。

今月は自然災害への備えについて4つの項目について紹介します。



1 家族で災害について話し合う

家族で災害について、日ごろから話し合っておきましょう。

災害は突然襲ってきます。家族が一緒にの時に起こるとは限りません。そのような時でも慌てずに済むように、家族一人ひとりがやるべきこと、避難の方法、避難経路、避難する場所、連絡の方法などについてよく話し合っておきましょう。



2 非常持出品と備蓄品

非常持出品は、家族の構成を考慮して災害時に必要なものを用意しておきましょう。また、避難時は時間的な余裕がありませんので、すぐに取り出せる場所に保管しておくこと。最初に持ち出す非常持出品と災害発生から復旧が始まるまでの数日間を支える備蓄品(3日分、可能なら1週間分)も用意しておきましょう。

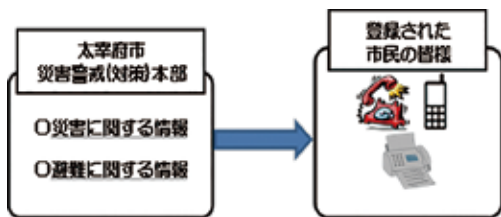
普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法をローリングストックと言います。

3 災害時の情報の確認

日ごろから気象情報や災害に関する情報を入手できるようにしておくことは大切なことです。特に、避難情報や気象警報の情報は、自分の身を守ることに繋がります。

市では、災害情報、避難情報などをお知らせする「災害情報等配信サービス」を行っています。自宅の電話・ファクス・携帯電話に、災害や避難情報が自動配信されますのでぜひ登録してください。

また、福岡県も「防災メール・まもるくん」の運用を行っています。詳細は、防災安全課までお尋ねください。



4 5段階の防災気象情報

平成30年西日本豪雨の被害を教訓に、気象庁は5月末から水害・土砂災害の防災気象情報に「5段階(1~5)の警戒レベル」の運用を開始しました。それに伴い本市でも危険度を分かりやすく示した警戒レベルで避難勧告などを発令します。

土砂災害の危険性のある特別警戒区域(レッドゾーン)や警戒区域(イエローゾーン)とその周辺にお住まいの人、御笠川沿いの浸水想定区域や周辺の人、早めの準備と避難のタイミングに注意して、「自分の命、家族の命」を守りましょう。

5段階の警戒レベル

警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村が発表する避難情報など	気象庁などが発表する気象情報など
5	命を守る最善の行動を	災害の発生情報	大雨特別警報 氾濫発生情報
4	全員避難	避難勧告 避難指示(緊急)	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報など
3	避難準備 時間のかかる人は避難	避難準備 高齢者等避難開始	大雨警報、洪水警報、 氾濫警戒情報など
2	避難行動の確認	注意報	氾濫注意情報など
1	災害への心構えを高める	早期注意情報 (警報級の可能性)	

警戒レベル1・2は気象庁発令、3・4・5は市が発令します。